



平成 22 年度総会記念 (H22, 4, 15)

【平成二二年度総会を終えて】

会長 馬出俊吉

今年四月一五日熊本エミナースにおいて、さわやか四期会の第一五回総会を無事開催することが出来ました。

来賓としてさわやか財団の真開常務理事と、例によって吾等の主任教授・大久保先生のご出席を頂き、総会に花を添えて頂きました。

第一回総会は平成八年四月に行われ、出席者は百数名。

それから一五年、会員数は三十四名と減少しましたが出席数は大久保先生と大学院学長の横田耕次氏を含め二十九名うち会員数は二十七名、現会員数の約八十%の方が出席されたのであります。これは四期会の平均年齢八十歳を思えば高い出席率だと思えます。殆どの方が何らかの疾患を持つておられます。しかし皆様大変にお元気で、人間を八十年もやっておれば、当然の事、あちこちと不具合が出てまいります。

平成 22 年 総会 収支 報告				単位:円
区分	単価	金額	摘要	
収入	懇親会費	5,000	145,000	5,000×29=145,000
	懇親会費		128,670	
支出	写真代		3,247	
	残金		13,081	一般会計に繰り入れ

古くから「病は気から」と申します。気持ちの持ちようでも毎日を元気に暮らすことが出来ると思えます。気持ちを明るく前向きに保ち、毎日を元気に過ごしましょう。

と、いつても病気ををお持ちの方は、お医者さんに早めに掛かり、十分に養生しましょう。一病息災と申します。病気が仲良くお付き合いをしながら、気持ちは元気で毎日を通したいものです。今年一年、元気で明るく、さわやか四期会を盛り立てて行きましよう。

会員皆様のご健勝を祈念申し上げます。(おわり)

【花見の頃思うこと】

D 班 山本 健一

桜の花が開花した。三月三十一日さわやか四期会の花見が監物台で二十二名の参加のもと、盛大に開かれました。会員出席率は三分の二で、イベントの好評ぶりが伺えました。お互い久しぶりの再会で話も大いにはずみ、健康でい

る事の幸せをかみしめました。そして今年も頑張っていたことと誓っていました。

時折の風でソメイヨシノの桜吹雪で全員の歓声が湧きあがっていました。

桜の下にひろげられた、例年の京べんとくに舌つづみ、短時間の思い出に残る楽しい花見に参加しました。

春は気分も明るくなり、卒業、入学、就職と忙しい季節である。私は中学校の近くに住んでいるが、学生は三年間で随分たくましくなり、身も心も成長していく姿が分かる気がしています。

最近のマスコミの報道によれば、大学高校の卒業生二割が、就職が決まらない。その事は過去最低の数値となっていると報じていた。私はさまざまに思いで心が痛んだ。振り返れば私事ですが、辛い卒業と同時に就職し、定年まで働く事が出来ました。

先日、年金機構から月数確認があったが一行位で簡単に済み有難い事と思っています。元職場の人の読んだ川柳を思い出します。

『待ち針の役に徹した宮仕え』

私も今、そんな気がしています。「終り」

【あめふり】

A 班 市原 輝夫

あめあめ ふれふれ かあさんが じゃのめで おむかえうれしいな ピッチピッチ チャップチャップ ランラン

どなたも口遊び、その都度この歌に纏わる想いもございましょう。

シトシトの小雨

ギアザー ザアザー

と降りしきる大粒の雨、時と所の違いはあるが、いよいよ梅雨の候となりました。

野口雨情作詞、中山普平作曲の『あめふり』である。

このお見事な優れた歌詞も、時の流れ、時代の変遷と共に、今ではその姿が薄らぎ、もう消えてしまったのかときえふと思われます。

もう一度口遊んでみてください。さいませ。

お気づきでしょう。蛇の目で・・・お迎え・・・。お母様はお着物、下駄履き、蛇の目の傘は高級感があり、番傘とは同列にならず、ただ一本離れて寂しく飾られていたように思っ。

小学二年生の時、なぜか友と二人遅く帰ることになった。先生（お美しくお着物で袴をつけていらっしやっ）が傘をお貸し下さった。

それはそれはきれいな大きい、じゃのめであった。二年生二人、それはそれはうきうき気分。大きい傘の柄を、右手と左手で支え合いながら、きつと、はしゃいでいたのである。

突然、傘の柄は友の左手から離れ、懸命に支えたであろうに、私の足元に蛇の目部分の無惨な姿を見たのである。

『ご想像にお任せします』
因みに、私の学んだ校歌の一節に、

「我等飛鳥は 使命に笑みて
霖雨の二期は翼を収め

快晴二期は 雲居を翔くる」
（春と夏は 雨が続く。秋と冬は、快晴、これで夏の酷暑

から逃れられた。今は南の国
外国になつて居る）

雨の悲しさ、雨のうれしさ、
ありがたさを思いながら。

「おわり」

【俳句・短歌】

B班 河地 暉

西日本新聞

平成二十一年 年間賞受賞

(二月十一日)

返り花一筋というは美しき

評 井芹眞一郎選者

俳句も自分の足で学びながら、

一歩一歩登っていくことが大切、ある程度到達すると

周りの景色が見えるようになる。継続することが大事です。

熊本市労連だより

老友紙上文芸大会

天賞

岩岡中正 選者

健気な返り花への共感を通

して、自分の生き方をつべない

自らを励ましている句である。

これからも一途に詩を詠

んでほしい。

短歌 入選作

わが誇り八十七年人生は二

人すこやか介護受けざる

「以上」

《事務局だより》

会員の皆さん、お元気で暮しの事と存じます。

五月から六月にかけ野山も

里も緑が美しく、木々の間を

吹き抜ける風のさわやかさ。

わが「さわやか四期」もかく

あらんか？おそらく一年中で

一番過ごし易い季節ではない

でしょうか。

しかし世の中、悪いことも

起る。家畜の口蹄疫の伝染、

殺処分痛ましき、畜産農家の

被害、これからの暮らし、

お気の毒この上なし。

熊本に飛び火せんことを願う

のみである。

の流れ、お粗末の一語に尽き

る。政局も不安定になり困っ

たもんだ。年寄りが知ったこ

つじやなかと、野次馬気分じ

やおれん気持ちですね。

さて、さわやか四期会では

六月・七月で、秋の日帰り旅

行の行き先をきめ、概略の計

画をつくり、粗漏のないよう

にしたいものだと思っております

ますので、皆様のお知恵を拝

借して、より良い秋の一日に

さわやか大学大学院特別講座 のご案内

さわやか大学大学院の特別講座が下記の要領で開催されます。

受講をご希望の方は、6月末日までに事務局長の田上に申し込んで下さい。大学院には4期会から名簿をそえて申し込みます。

多くの方の受講を希望します。

あそここんな店があるとか
安くて近くてそうにやサービ
スのよかとか、情報を提供し
て戴きたいとお願する次第
です。各班の役員さん、また
は私(事務局の田上)に直接
でも結構です。
間も無く梅雨期になり、さ
わやかとは縁遠い季節にな
ります。
お躰にお気をつけてお暮し
下さい。
「おわり」

記

- 1、講師：前熊本県知事 塩谷義子 先生
- 2、演題：「生きることは願うこと」 同封のチラシ参照
- 3、場所：パレアホール(鶴屋東館10F・県民交流館パレア)
- 4、日時：平成22年8月2日(月) 開場/14:00 開演/14:30
- 5、その他：不明な点は事務局にお問い合わせください。